

ポリテクセンター函館

専門的技術教え 再就職支援60年

離職者が再就職を目指し専門的な技術を身に付ける、職業訓練施設「ポリテクセンター函館」（日吉町）が4月に開設60年を迎えた。地域の要望に応え、昨年溶接技術が習得できるコースを新設。人口減少に伴う人手不足が深刻化する中、社会が求める人材を育成しようと訓練に励む現場を訪ねた。

3月中旬の平日、ものづくりに設置されている。希望者くりに機械科を受講する20代はハローワークに相談し50代の7人が溶接の基本技術「炭酸ガスアーク溶接」を学んでいた。同科は溶接や機械加工に関わる企業への就職を目指すコース。受講生が専用の機械で金属板を溶かす様子を見ていた講師の松田拓朗さん(43)は「気持ち焦り、機械を早く動かしている。何度も反復練習しよう」とアドバイスを送った。

ポリテクセンターは独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が運営し、道内では函館を含め4カ所

ものに設置されている。希望者くりに機械科を受講する20代はハローワークに相談し50代の7人が溶接の基本技術「炭酸ガスアーク溶接」を学んでいた。同科は溶接や機械加工に関わる企業への就職を目指すコース。受講生が専用の機械で金属板を溶かす様子を見ていた講師の松田拓朗さん(43)は「気持ち焦り、機械を早く動かしている。何度も反復練習しよう」とアドバイスを送った。

新たに溶接指導も 地域の需要に応え



月に設置された。すでに30代40代の男女2人が溶接技術を持つ人材を求める地元企業に採用されるなど、成果が出始めている。同科の受講生、鶴喰広太さん(33)は「全く知識がなかったが、丁寧に分かりやすく説明し

ものづくり機械科の訓練で、受講生(右)に溶接技術を指導する講師



てもらっている」と感謝する。鶴喰さんは当初、自動車整備関連の企業を目指していたが、溶接などの技術を身に付ける過程で、造船業や建築会社への就職も視野に入れるようになったという。

さらに同センターでは専門技術の訓練だけでなく、履歴書の書き方や面接の受け方、ビジネスマナー講座といった就職支援にも取り組んでいる。「パソコン操作から、企業の情報提供まで、サポートは万全だった」と語るのは高田恭太さん(27)。高田さんは電気工事に関する技術を学ぶ「電気システム科」を受講し、関係する資格を取得。今年4月から、東京都内の電気設備を扱う企業に正社員として勤めている。

ポリテクセンター函館では離職者向けの講習のほか、在職者向けのスキルアップ講習や障害者の就職支援活動も実施している。同センターの中谷努訓練課長(45)は「早期離職をした若年層にも、第二の人生を目指す中高年層にも積極的に利用してもらいたい」と話している。

(川内晴貴)